

# 業務部速報



No. 20

発行 25. 7. 28

JR東労組 業務部

「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」  
申2号 に関する説明申し入れ(その2) 7月25日 団体交渉を行う!④

## 【組織の見直し】31項目

6. 各事業本部での勤務モデル(勤務指定および作業ダイヤ)を系統毎に明らかにすること。

会社の考え方	説明内容のポイント
--------	-----------

- ・企画業務をしながら、第一線の仕事をしていくことになる。仕事がある以上、作業ダイヤもある。また、フレックスも広がっていくと考える。
- ・駅と乗務員は親和性が高いので、本当の意味での融合と連携を高めていきたい。事業本部発足後、駅・乗務員が検修の業務を行うことは可能性としてはゼロではない。
- ・スペシャリストもゼネラリストも必要である。マネジメントをする場合にはどちらも必要である。
- ・事業本部になると、担務の概念を変えないといけない。担務とは担当業務のことだが、現在は複数の業務を担っている中で、これまでの担務という考えはどうかと考えている。
- ・融合と連携を図っていく。しかし、全員ができるわけではないので、社員のタレントマネジメント(能力管理)は非常に大事である。
- ・暦日で出勤場所、退勤場所が異なる場合も想定している。
- ・乗務員の勤務指定は、規定に基づいてこれからも作成していく。
- ・勤務指定は事業本部長名で出すことになるが、勤務指定の単位はエリアごとと考えている。
- ・JINJREと輸送総合システムがあり、これまで同様に勤務指定は異なる。

7. 各事業本部に移行する際の社員に対する発令の考えについて明らかにすること。

会社の考え方	説明内容のポイント
--------	-----------

- ・事業本部発足時に、所属する「〇〇事業本部〇〇部」という発令となる。
- ・基本的に在勤地指定は行う考えはない。
- ・部や事業本部間での兼務発令はある。
- ・電力と信号の新小岩MCと新小岩保線センターは、技セが千葉にあるので千葉事業本部の所属になる。

8. 各事業本部で行う生活ソリューション部門の業務について具体的に明らかにすること。

会社の考え方	説明内容のポイント
--------	-----------

- ・本社・支社でやっている仕事の一部が事業本部に移管される。生活ソリューション全般である。
- ・生活ソリューション業務の内容は、企画業務に含まれている。臨機応変に対応するので、出面数で示せない。

⑤に続く